様式第２号（第３条関係）

行政視察等報告書

平成２７年１１月１１日

米子市議会議長　様

会派名　　蒼生会
代表者氏名　尾沢　三夫
提出者氏名　三穂野　雅俊

下記のとおり報告します。

記

項　　目	□現地調査　☑行政視察　□要請・陳情活動 □研修会への参加　□会議への参加
参加者	門脇一男、田村謙介、三穂野雅俊
期　　日	平成２７年１０月２８日 から 平成２７年１０月３０日まで

〔概　要〕（年月日・場所・内容）

平成２７年１０月２８日　・北海道岩見沢市
「岩見沢駅舎改築・駅周辺整備事業について」

平成２７年１０月２９日　・畝森泰行建築設計事務所
「公共事業への取組みについて」
・株式会社ワークヴィジョンズ一級建築士事務所
「岩見沢駅事業について」

平成２７年１０月３０日　・財団法人都市づくりパブリックデザインセンター
「公共事業への取組みについて」
「官民連携基盤整備推進調査費について」
・内藤廣建築設計事務所
「全国のＪＲ関連駅事業について」

〔所　感〕

別紙のとおり

経　　費	旅費総額　３９５，９６８円

【所感】
この度の視察先は、現在米子市が取り組んでいる「米子駅南北自由通路等整備事業」をより良いものとするために必要だと考えている【自由通路・駅前広場・半橋上駅・新駅ビル等、米子駅周辺の一体的計画づくり】について学べると考え選びましたが、全ての視察先で新たな見識と気づきをいただくことができ、大変有意義な視察となりました。

□北海道岩見沢駅周辺事業について
この事業は、鉄道のまちとして発展をしてきた米子市の歴史及び現在行われている米子駅の事業に類似点が多くとても参考になりました。
特筆すべきことは、南北自由通路・駅前広場・複合駅舎等を一体的に計画をし、ＪＲの駅として全国で初めてデザインコンペを行ったことであり、その趣旨は下記の通りです。
「単なる駅としての機能だけではなく、まちの顔として文化を担い、交流の拠点となり、交流人口の増加による地域の活性化を図ること。また話題性と先進性を持ち質の高い設計アイディアを得ること」
今、米子駅に求められていることです。
このデザインコンペは、非常に注目を浴び全国から３７６件もの応募がありました。その後も多くの市民要望により急遽最終応募作品の公開を行ったり、最終応募作品のプレゼンテーションには予定していた会場に入りきらない市民が押し寄せたり、事業実施にあたっては、多くのワークショップを行い、駅舎の壁や広場に敷き詰める為のレンガに名前を刻み寄付金を集めるような活動等、市民の関心・理解・協力を集めるプロセスを大切にし続けました。
このような岩見沢市は勿論、ＪＲ・市民・関係者が力を合わせ将来を見据えた一体的な取り組みにより、市民の誇れる素晴らしい駅が完成しています。
このことは、駅として初めてグッドデザイン賞を受賞されたり、海外の権威ある賞の受賞など、国内外で高く評価されていることが証明しており、見習うべきところが多々あった視察となりました。

□畝森泰行建築設計事務所
プロポーザル方式で委託された福島県須賀川市の市民交流センターの取り組みについてお話を伺いました。
須賀川市は、東日本大震災により未曾有の被害を受けました。行政はその状況を踏まえ、この事業を「市民に自信と誇りを取り戻してもらい、こども達に夢と希望を与えるため、創造的復興を目指し、老若男女問わず様々な市民が集い、交流・活動し、ふるさとの良さを再発見するとともに新たな文化を創造発信していく、市民文化復興のシンボル」として整備に取り掛かっています。
その趣旨をよく理解し委託された畝森様は、机上の計画・設計だけではなく、実際に必要とされる人・使われる人がどのように考えているのかを非常に重要視し、全体プランを練っておられました。
計 28 回にわたり開催した市民ワークショップ、まちづくり市民懇談会、地元商店街、市民活動団体の方々、パブリックコメントにより寄せられた意見、さらには市議会の提言を踏まえ、行政と一緒になり検討を重ね、基本設計を取りまとめられていました。この期間は約１年です。約２０年前から間隔が開きながらの計画検討をベースにし、実際に必要とし・利用していただく市民に目的も計画も届いていない米子市の現状に必要なプロセスであると感じた視察となりました。

□(株)ワークヴィジョンズ建築設計事務所
北海道岩見沢駅のデザインコンペで最優秀賞を受賞された事務所です。他にも全国各地で公共事業・まちづくりに携われており、具体的な事例と共にお話を伺いました。
岩見沢駅に関わられた約１０年前の頃は市民との協働という概念がまだまだ浸透していなく、公共事業を請け負った企業がまちづくりにまで入り込むようなことはなかったそうです。私も元々米子市職員として勤務をし

ていたのでよく分かりますが、行政が目的を示し地元対応を行い、企業はただ発注されたものを作るという図式でした。しかし、ワークビジョンズ様は、受注した事業の目的を深く考えた時、地域に入り込まなければいいものが・求められているものが・完成後に愛され使われるものが出来ないと考えておられるようでした。ワークショップやアンケートなどで色々な方からの意見徴収はとても大きな労力です。多種な意見は参考にもなりますがまとめるのは大変です。ですが、このプロセスがあるからこそ、ひととまちが育ち、事業がより良いものとなり、完成後も関係者の関心を離さないのだと学びました。現在の米子市の事業担当課からは決して感じられない熱い想いと実際に活動をされているスタッフの皆さんに敬意を表したいです。

□(財)都市づくりパブリックデザインセンター及び国土交通省国土政策局広域地方政策課調整室担当者
こちらの財団は、「官民一体となった専門の調査機関として、学際的な調査研究および技術開発を総合的・複合的に行い、魅力あふれる都市空間を創造することに寄与すること」を目的としていて、全国各地の公共事業に携わっている実績があります。現在の米子駅事業が一体的計画がされない要因の１つが事業資金の受け側（ＪＲ）と支払う側（米子市)が本来の目的である、米子市及び市民の将来のためだけに注力して建設的な協議が出来ていないことがあり、この課題を解決するためには第三者機関が必要だと考えています。この財団は、事業受託調査にあたって、各界の専門家並びに市民参加による委員会の設置などにより、総合的な検討のもと目的達成の計画を策定されているので、是非米子駅の事業に関わっていただけないかと考えています。
また、国土交通省の方からは「官民連携基盤整備推進調査費」についてお話を伺いました。
この調査費は、特色ある地域の成長を図るためには、民間投資や事業に合わせて官による必要な基盤整備を一体的に行う必要があるとして設けられたそうで、民間の意思決定のタイミングに合わせて、機を逸することなく構想から実施となるよう支援するための制度でした。支援の対象は、民間の事業と一体的に行うことにより効果の高まる事業ということなので、やはり米子駅事業の進捗次第では検討価値のある制度だと思います。また米子駅は中心市街地活性化事業の中でも重要な位置付けとなっているので、こちらでの利活用も視野に入れときたいと思います。

□内藤廣建築設計事務所
東京大学の名誉教授であり、岩見沢駅舎建築デザインコンペの審査委員長であり、全国各地の駅事業に携わられ、今日本で１番駅事業の現状についてお詳しいのではないか！？と思っている方にお話を伺うことが出来ました。
今回の視察で最後にお会いしたのですが、他の方々から受け取ったメッセージ、気づき、現実をより深くご教授いただきました。ワークショップ等により住民・地域を事業に巻き込むこと、目的を達成するために必要な組織に対してボトムアップとトップダウンの必要性を理解することなど。そして色々なお話を伺いながら伝わってくることは、結局はもっとも大切なのは「ひと」だということでした。その大切な「ひと」と出逢うため、協力理解を得るため、出来ることを邁進するしかないと、視察の最後に再認識することが出来ました。

□最後に
「米子駅南北自由通路等整備事業」は、単なる米子駅の改修工事ではありません。これから希望や夢の持てる【米子のまちづくり】をするための重要な事業です。だからこそ、様々な可能性・多角的な視点からの一体的な計画が必要であり、そのためには多くの市民の声・関係者を巻き込んだプロセスが大切だということです。
私達は、本事業が米子市の将来ビジョンをもった上での取り組みとなるように全力を尽くしますので、市民の皆さんも大きな関心を持ち、行政と議会をチェックしていただけるようお願いします。